

令和6年3月28日

保護者のみなさまへ

川西南中学校学校関係者評価結果および提言について

少しずつ春の気配を感じる日が多くなってまいりました。保護者の皆様方には、日頃より本校教育活動に、ご理解・ご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、2学期末に学校関係者評価として学校教育アンケート調査を実施したところですが、その結果をご報告させていただくとともに、結果を分析・検討したものを、学校運営協議会からの学校評価・提言といたします。

川西市立川西南中学校学校運営協議会
会長 大矢根 秀明（PTA顧問）
川西市立川西南中学校
校長 株本 一男

アンケートにつきましては、「目指す生徒像」「学習面について」「学校規律について」の三つの大項目と、それぞれに小項目を設け、A(大いに当てはまる)B(当てはまる)C(あまり当てはまらない)D(全く当てはまらない)の4段階評価を実施し、本年度はA及びBの回答を肯定群とし、その割合について経年比較を行いました。調査対象は三者(生徒、保護者、教職員)で、経年比較は3年分となります。

また、保護者の方には、昨年度に引き続き学校教育に関しての、ご意見・ご提案をいただきました。

1、アンケートの傾向分析について

(1) 目指す生徒像について

①生徒の評価

概ね昨年度と同等の傾向が見られましたが、「明るく表情豊かに過ごしている」という質問で、大いに当てはまると答えた生徒が昨年より8ポイント上昇しています。

また、「あきらめず粘り強く進むことができています」と回答した生徒は10ポイント上昇しています。

②教職員の自己評価

多くは昨年度と同程度ですが、「あきらめず、粘り強く、進むことができています」という項目の肯定的な評価は、昨年度から大きく27ポイント減少しています。

③保護者の評価

「あきらめず、粘り強く進むことができています」の項目は昨年度と同様、他の項目に比べて肯定的な回答の割合が60%程度と少ない状況です。

考察

教職員・保護者とも「あたたかい思いやりを持った生徒」という項目についての評価は高く、南中生の誇れる点であるとともに、さらに伸ばしていきたい点であると考えます。「あきらめず、粘り強く進むことができています」という項目については、教職員の肯定的なとらえ方が著しく少ないため、目標とするものがかなり、生徒や保護者の方とのギャップがあるものと考えます。しかし、粘り強く取り組む姿勢は今後生きていくうえで必要な力であると考えます。教育活動の中でこの力を培う工夫が必要であると考えます。

(2) 学習面について

①生徒の評価

多くは昨年度と同等の結果ですが、「先生はわかりやすい授業をしてくれている」というポイントが7ポイント増加し、一昨年度と同程度まで戻っています。

しかしながら、「家庭学習にしっかり取り組んでいる」という項目は昨年度と同程度で、50%を切っています。

「体育大会や文化活動発表会など学校行事は充実していて楽しい」という問いに肯定的に答えた生徒は5ポイント上昇しています。

②教職員の自己評価

学習面での評価で、肯定的な回答が著しく低かったのは「家庭で勉強する習慣がついている」という項目でわずか6%でした。

また、「南中生は学校で一生懸命勉強している」という項目は、肯定的な回答が減少傾向で、昨年度より15ポイント減少しています。

③保護者の評価

昨年同様、学習面に対する肯定的な評価の割合が低くなっています。「南中生は学校で一生懸命勉強をしている」という項目では肯定的な回答が60%程度、「家庭で学習する習慣がついている」という項目については50%を切っている。

考察

家庭での学習習慣については、3者とも評価が低いことから、生徒への意識づけが特に重要だと考えます。学習する意義を生徒自身が見出し、主体的に学習をしようとする態度を身に付けさせることが必要であると考えます。

また、生徒が主体的に自分の理解度に応じた課題に取り組もうとする姿勢を育んでいく必要があり、「個別最適化」な学習をどう進めるかの研修を教職員が深めていく必要があります。学校のみならず、ご家庭におかれましても、お子様が自分自身の将来を見据え、学習の意義を見出せるようご指導よろしくお願いします。

(3) 学校規律について

①生徒の評価

昨年度と比べると、「学校へ行くことが楽しい」という問いに肯定的に回答している生徒が18ポイント増加しています。「規則正しい生活を心がけている」という項目について肯定的な回答をしている生徒の割合は昨年と同程度で少ない状況です。

②教職員の自己評価

「礼儀正しく挨拶ができる」「敬語など正しい言葉遣いができる」という項目での肯定的な回答が11ポイント減少しています。「清掃活動にしっかり取り組んでいる」という項目において、「全く当てはまらない」という回答が増加しています。

「教職員同士協力し、教育活動を進めている」という項目も肯定的な回答が15ポイント増加しています。

③保護者の評価

17 教職員と保護者との連携協力、18 教職員同士の連携、19 教職員による生徒理解という項目において、肯定的意見が80%となっており、相対的に値が低くなっています。また、「全くそう思わない」という否定的意見も出てきているところであり、我々教職員が努力していかなければならないところであるととらえています

考察

「17 教職員と保護者の連携」、「18 教職員同士の協力」、「19 教職員の生徒理解」の項目については、その他の項目に比べると相対的に低いので、昨年度に引き続き努力していかなければならないことであると認識しています。

部活動については令和 8 年度から社会移行する方向であることから、保護者の方、地域の方の協力がますます必要となってきます。

生徒理解については、教員は昨年度より生徒を理解しようと努力しています。生徒や保護者の方の中にはやはり一定数否定的なご意見もあることから、この部分を少しでも無くせるように努めていく必要があります。

2 自由記述について（別紙）

様々なご意見、ご提案をいただきありがとうございます。いただいたご意見等につきましては、今後の学校運営の参考とさせていただきます。今年度も代表的な意見につきまして、大まかな区分で学校長としての考えを掲載しております。また個人が特定される表現やこの場での掲載がなじまないご意見等については、一部表現を変えさせていただいたり、掲載を控えさせていただいたりしております。

すべてのご意見にお答えはできておりませんが、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

3 提言

- 1, 学習面の課題については積み上げの部分も大きく影響しており、中学校の問題だけではなく、小学校と連携して取り組む必要がある。
- 2, 保護者アンケートは他のアンケートと違う視点も必要であるが、同じテーマで保護者、生徒、教師の三社で比較したい場合や、経年比較を見ていきたい項目についてはその意図をアナウンスするべきである。
- 3, 保護者には、新しく取り組んでいることなどについてアンケートを取ることも必要ではないか。
- 4, 生徒、保護者の回答と教師の回答で大きな開きがある項目があるが、生徒の頑張りを見て、生徒に寄り添っていく姿勢が必要ではないか。とらえ方が大きく違っていることについては学校が考えていくべき課題である。
- 5, 『先生が理解してくれている』というのは、何を基準に回答しているのかわからない。理解してくれる先生もいればそうでない先生もいる場合どう回答するのかわかりにくい。
- 6, 地域での生徒の活動（お祭り、餅つきなど）地域の方に来てもらって生徒に広報し、発信することも有効である。また、学校運営協議会で生徒が参加できる地域行事を提案してもらうことができればよい。